

巻頭言

東京一極集中と地方創生

昭和 47 年卒 北陸電力株式会社代表取締役会長 久 和 進



本題に入る前に、学生時代の思い出からお話しします。京大に入学したのは昭和 43 年（1968 年）です。その頃は学生運動が激しく、私は所謂ノンポリでしたが、入学した年の夏休み頃から教養部がバリケード封鎖され、約 1 年間教養課程の授業ができない状態になりました。その後学生運動は収束に向かいましたが、そのような時代でしたので、学生時代の思い出と言え、勉強よりも徹夜麻雀と深夜映画です。麻雀はあまり強くありませんでしたが、下宿が同じ学年の京大生ばかりだったこともあり、下宿のみんなでよくやりました。映画は深夜映画 4 本立てをよく見に行きました。土曜の夜 10 時頃に映画館に出かけ、翌朝 5 時頃に下宿に帰ります。当時、学生の間では、高倉健や藤純子主演のヤクザ映画や日活ロマンポルノが人気でした。ヤクザ映画やポルノ映画だけでなく、時には黒澤明監督や溝口健二監督などの名作も上映したりしていて、それ以来、映画鑑賞が私の趣味になりました。

このような学生生活でしたが、就職先を決めなければいけない時期になり、当時は大学院への進学がまだ一般的ではなく、当初から就職することにしていました。都会の通勤地獄や大気汚染などが問題になっており、都会で就職してもあまり良いこともなさそうに思えたことと、父親が帰って来いと言っていたことから、郷里で就職することにしました。電力会社に就職することになり、それまでは物性に關心があり、強電の分野の単位をあまり取っていなかったのが、急遽強電の単位を取り、結果的に卒業に必要な単位よりもかなり多く単位を取得したことになりました。この頃が大学で一番勉強したように思います。

而来、45 年程が経ちました。今は会社の会長や北陸経済連合会の会長を勤めていますが、これもめぐり合わせかなと感じています。

ここからは、今取り組んでいる地方創生についてお話しします。北陸経済連合会では、北陸地域が地方創生のモデル地域となることを目指して取り組んでいます。ご存知のように少子化で日本の人口は既に減少しつつあり、地方では人口減少と高齢化が進んでいます。その一方で、東京圏だけが若者の流入により今でも人口が増加し東京一極集中が続いています。

歴史を振り返れば、江戸時代には江戸は既に世界最大の大都市でしたが、基本的には各藩による地方分権体制が布かれ、加賀百万石の城下町金沢も国内有数の大都市でした。明治になり中央集権体制が確立し、以来東京一極集中の流れはずっと続いています。

大都市に人口が集中することにより、規模の経済や集積による効率性の向上などの経済的メリットがあり、都市集中には合理性があると言われていました。しかし、全国の人口が減少する中で、東京圏の人口が約 3 割を占め、現在も人口が増加し続けていることは大きな問題です。特に、東京は結婚年齢が高く子育てもしにくく、その結果、合計特殊出生率は全国最低です。その東京に若い女性が集まることは人口減少に拍車をかけることになります。地方の若者が減れば、東京へ流入する若者もやがてほとんど

いなくなるでしょう。このまま東京一極集中が継続すると、地域間の格差が拡大し出生率が低迷し持続可能な社会を維持することも困難になると大いに危惧しています。明治以来続いたこの大きな流れを止め、更にもその流れを逆転させることは生易しいことではありませんが、今こそ東京一極集中を打破し、地方創生を実現しなければならないと思っています。大都市への一極集中は発展途上国ではよく見られますが、必ずしも世界的な趨勢ではなく、ドイツのように大都市への極端な人口集中がない国もあります。

以前は、豊かで華やかな東京に憧れる意識が国民に広くあったように思いますが、今や新幹線・飛行機などの交通手段の進歩やパソコン・インターネットなど情報通信技術の普及拡大などにより、まだ十分ではありませんが地方のハンディキャップは薄らいできています。一方逆に、東京圏での子育ての難しさや今後進む急速な高齢化、首都直下地震などの問題がクローズアップされてきており、人々の意識も徐々にではありますが変化してきているように感じています。

北陸を含め地方にも世界と競争してクリエイティブな仕事をしている優れた企業がたくさんあります。最近では、東京の大企業よりも地方発の企業に高い成長を達成している企業が多いとも言われています。そのような地方の企業に目を向け、優秀な人材が地方にも集まることを心から希望するものです。地方には東京のような華やかさはないかもしれませんが、子育て・育児に適し人間らしい生活環境が魅力です。幸い北陸は豊かさの点でも大都市に引けを取りません。是非、京大の学生のような優秀な学生が地方の良さに目を向けてくれることを期待しています。